

研究班番号【 27 】
なぜ欧米人はマスクに慣れないのか
～日米間の口元の意識の違い～

英語班:藤家 智耶子、磯部 真彩、坂本 惟愛、田中 杏実、富名腰 海桜

Abstract

The purpose of this study is to reveal the reason why Americans feel uncomfortable when wearing masks. This study reports the differences in awareness of teeth expression between Japan and the United States in terms of data, differences in perceptions of facial expressions, and even the differences in “emojis” between Japan and the United States. The first research shows that Americans’ awareness of teeth is higher than Japanese, for example, Americans tend to like smiles with teeth. The second research shows that the perceptions of facial expression are related to their own history and cultures. The third research shows that American’s “emojis” change the shape of the mouth depending on the emotions. This means Americans show their feelings with their mouth “emojis”. This study concludes that Americans have regarded the facial expression as important since the old days. So, Americans have opposition to cover their mouth with masks.

要約

1. はじめに

コロナ禍のニュースで日本ではマスク着用が日常になっているが、それに比べて外国ではマスクを外している人が多いのを知り、どうして違いが生まれるのか気になった。そこでアメリカを対象に、アメリカ人はコミュニケーション時に口元に注目するのでマスク着用で違和感を覚えるという仮説を立てた。以下の文では「研究方法①.データから見る日米間の歯に対する意識の違い」「研究方法②.表情への認識の違い」「研究方法③.日米間の絵文字の違いからみる」とする。

2. 研究手法

《研究1》

インターネットにより、日米間の歯に対する意識についてアライン・テクノロジー・ジャパン株式会社が行ったアンケート調査結果のデータを用いて比較した。以下の調査項目のデータを用いた。

データ①「歯並びの相談経験」について、日本(東京)、アメリカ(ニューヨーク)に住む20代から40代の一般男女各国400人ずつに、「相談したことがあるか」「相談したことがないか」を尋ねたアンケート調査結果

データ②「歯科矯正の治療経験」について、日本(東京)、アメリカ(ニューヨーク)に住む20代から40代の一般男女各国400人ずつに「20歳以降に治療を受けたことがあるか」「19歳までに治療を受けたことがあるか」「今まで治療を受けたことがないか」を尋ねたアンケート調査結果

データ③「歯科矯正をやってみたいと思うか」について、日本(東京)、アメリカ(ニューヨーク)に住む20代から40代の一般男女各国400人ずつに、「裏側矯正(舌側矯正)」、「マウスピース矯正」の2観点から「やってみたいか」「あまりやってみたくないか」「やってみたくないか」を尋ねたアンケート調査結果

データ④「日本在住の外国人の日本人の歯並びに対する印象」について、日本在住の外国人100人に、「歯並びがいい」か「どちらでもない」か「歯並びが悪い」かを尋ねたアンケート調査結果

《研究2》

- ①日本とアメリカの口元の認識に関して、文献、インターネットを使って調査した。
- ②調べた違いから日本、アメリカの特徴を見つけ、どのように関係しているのか調べた。

《研究3》

- ①日本とアメリカ絵文字を比較して両者の違いを調べた。
- ②調べた違いから日本の特徴とアメリカの特徴を見つけ、どのような関係があるのか考察した。

3. 結果

《研究1》

データ①「歯並びの相談経験」では、日本では「相談経験がある」と答えた人は23.5%であったのに対しアメリカでは67.6%と、アメリカは日本の約3倍となった。

データ②「歯科矯正の治療経験」では、日本では「治療を受けたことがある」と答えた人が14%で全体の約4分の1となり、アメリカでは58%と全体の過半数が治療経験があるという結果になった。

データ③「歯科矯正をやってみたいと思うか」では、日本では裏側矯正をやってみたい人が24%、マウスピース矯正をやってみたい人が34%と少数で、アメリカでは裏側矯正をやってみたい人が44%、マウスピース矯正をやってみたい人が62%と、約半数だった。

データ④「日本在住の外国人の日本人の歯並びに対する印象」では、「歯並びが良い」と答えた人が4%に対し、「歯並びが悪い」と答えた人は76%で、約4分の3が日本人の歯並びを悪いと思っていることがわかった。

《研究2》

日米間の表情への認識の違いを調べて、口元への認識の違いは、日米間の文化、歴史に理由があるとわかった。アメリカの歯並びに対する意識が高い理由は、米国社会での笑顔の重要性にあると言われている。アメリカは国土が広く、多民族国家で、文化が多様である。そのため、意思疎通が難しい。人に会ったときに笑顔で接することで、敵意がないことをアピールする必要があると言われている。対して日本は、狭い国土で同じ民族が同じ文化のもとで暮らしていたため、歯を見せた笑顔を浮かべる文化がなかったのではないかと考えた。

	日本	アメリカ
国土	狭い	広い
民族	同じ	多民族
敵意がないこと	示さない	示す
笑顔	微笑み	歯を見せる

《研究3》

①アメリカの絵文字では表す感情が変わると、主に口の形が変化し、目はあまり変化せずに点が2つ並んだ形で表されていた。それに対して日本では表す感情が変わると、主に目の形が変化し、口は棒線で表されていた。

②アメリカ人は感情を表に出す傾向があるためコミュニケーションの際、自分で動かして相手に感情を伝えやすい「口元」を意識的に動かす。その時は相手も口元に注目している。一方で日本人は感情をあまり表に出さないため、コミュニケーションを取っている相手は、話している相手の目に注目する。なぜなら、目は意識的に動かさなくても感情が出るとされているからである。

	アメリカ	日本
笑顔	:) :-) :-))	(^_^) (^ ^) (^-^)
悲しみ	:(:-< (:-/	(>_<) (T_T) (:_(:
驚き	:-0	(◎_◎;) (*_*)

4. 考察

《研究1》

日本人は歯並びに対する意識が低い、外国人から見て日本人の歯並びは良くない。

《研究2》

アメリカと日本の表情の認識の違いは、文化の違いにあることがわかった。

《研究3》 アメリカでは自分の気持ちを伝えるときに目は基本変えずに口元を変えることで感情を表していると考えた。また、反対に、日本では目を変えずに口を変えることで感情を表していると考えた。このことから欧米人は感情を口元から読み取り、日本人は目元から感情を読み取る特徴があると考えた。

《追加考察》

子音、母音の数が英語は約39語、日本語は約21語で英語の方が多く、そのため発音時にアメリカ人は舌がよく動き、それに比べて日本人は舌があまり動かず、また聞き分ける際にもアメリカ人は口元を見て、日本人は口元をあまり見ないことが分かった。

5. 結論

3つのテーマに分けた調査と追加考察から、アメリカ人は日本人よりも口元への意識が高いという事がわかった。したがってアメリカ人は昔からマスクに馴染みがなく、マスクをする生活になれないため、マスクをつけていない人が多い。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

・宮島悠旗 国際人になりたければ英語力より歯を”磨け”

・<https://digitalpr.jp/r/1275>

・東京女子大学現代教育学部心理学専攻 田中章浩教授の2018年のプレゼンのスライドの一部

・<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000006.000015367.html>

・Are the windows to the soul the same in the East and West?

Cultural differences in using the eyes and mouth as cues to recognize emotions in Japan and the United States

・マスクをした顔に対する表情認知の文化差

・<https://nativecamp.net/blog/20220527-japanese-english>